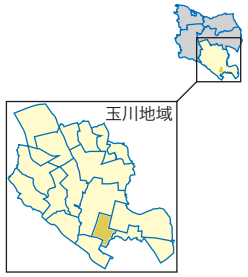
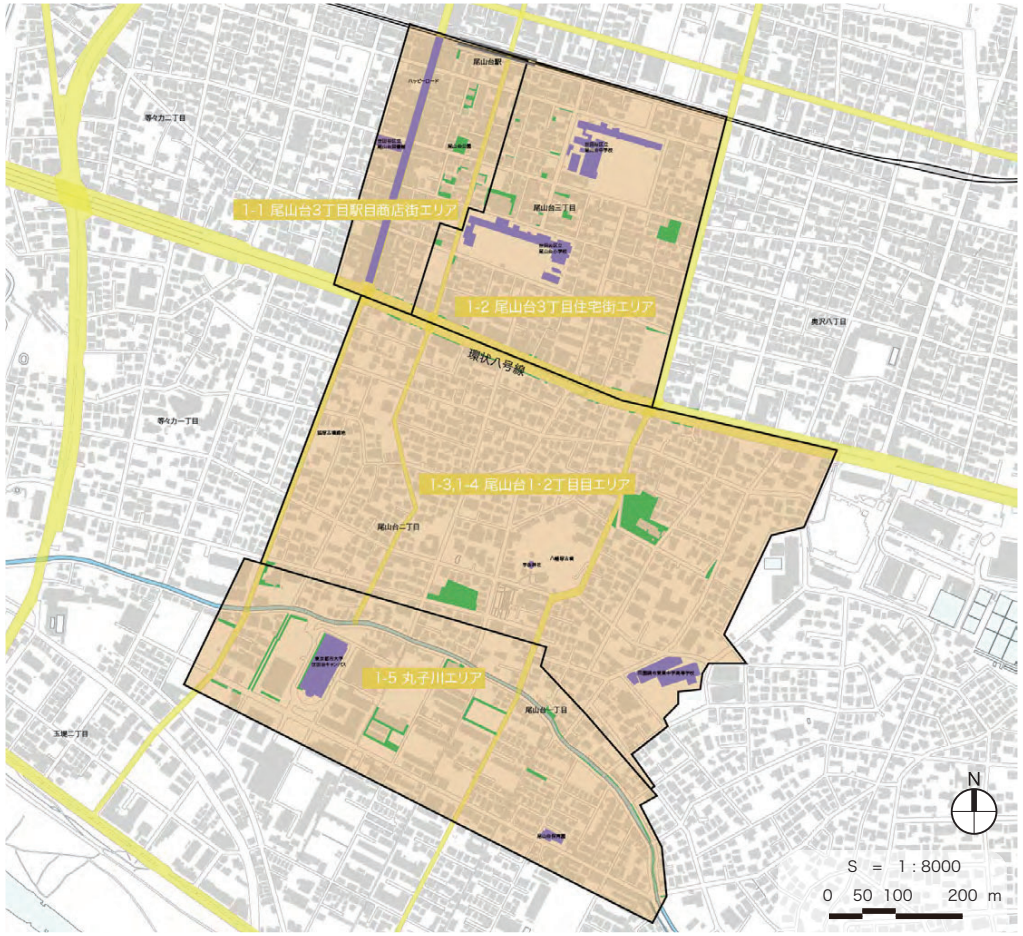
1　尾山台地区

尾山台は東京都世田谷区の南東に位置し、近世末期までは、「荏原郡小山(おやま)村」という区域でした。「尾山」は「小山」の変化したもので、小山とはこの村の主要部分が多摩川の浸食によって作り出された崖線途中にあるところから称せられたと考えられています。この浸食は地形にも影響しています。地区の中央を通る東京都道311号環状八号線(以下、環状八号線)より南側には起伏の激しい地形に住宅街が、環状八号線より北側には平地に駅前商店街や住宅街が広がっています。





1－1 尾山台商店街エリア
緑ある商店街と住環境が共存するまちの生活拠点へ

1－2 尾山台3丁目住宅地エリア
学校を中心とした親しみやすい景観を作る

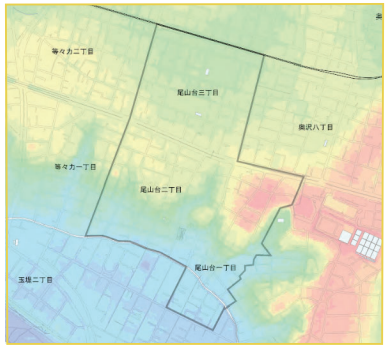
1－3 尾山台1・2丁目エリア　～地形と歴史～
地形や歴史資源がもたらす景観の多様性を保全する

1－4 尾山台1・2丁目エリア　～塀と緑～
塀と緑で守られた、住みやすい住宅街の維持

1－5 丸子川エリア
親水空間のある丸子川を感じられる、川と街が調和した景観へ

地区の概要

変化にとんだ地形



尾山台地区の地形

駅周辺に広がる台地

尾山台の名前から分かるように駅から環八通りまで平坦な台地が広がっています。
また、駅周辺には商店街があるため商業エリアのにぎわいがありつつ、まちの生活拠点となっています。

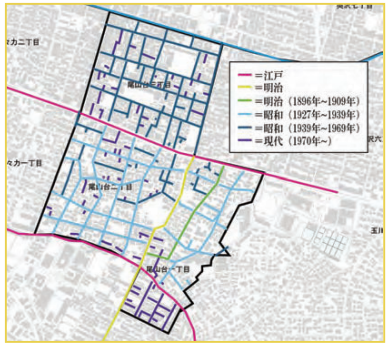
急な斜面地

環八通りの北側は比較的起伏は少ないですが、南側は多摩川の川の浸食により高低差のある崖線が広がっています。また、斜面地に沿って住宅が立地しており。尾山台1・2丁目南部は昔の多摩川の流路であったことによる河岸段丘となっています。

【1-1 尾山台商店街エリア】
地形が生み出す眺望点

【1-5 丸子川エリア】
尾山台南に位置する丸子川と坂道

まちの記憶



尾山台の街路形成史

江戸から続く尾山台の歴史

左の図から、まず江戸時代に環状8号線のもととなる道があったことがわかります。その後昭和29(1954)年に玉川村村長の豊田正治を筆頭に地元住民が主体となって区画整理を進め、尾山台1丁目と2丁目、3丁目の順に整備され、現在の街区に至りました。

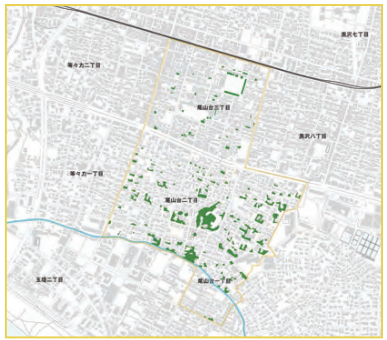
尾山台を代表する商店街

昭和5(1930)年、尾山台駅の開設から少しずつ店舗が並び始めました。初めは商栄会として発足し、その後「尾山台商栄会商店街振興組合」という法人組織が発足しました。
街路改造工事の完成より、「ハッピーロード尾山台」と名称を変え、現在の親しみのある商店街として変化しました。

【1－5 丸子川エリア】
宅地開発された住宅街

【1-1 尾山台商店街エリア】
尾山台の商業の中心地

水とみどり



緑被現況分布図

寺社と住宅のみどり

宇佐神社、傳乗寺周辺にみどりがまとまっており、その中には保存樹木に指定されているものもあります。東京都道311号環状八号線より北側と南側ではみどりの分布に差があり、南側ではより宅地内のみどりを感じることができます。

水とみどりの潤い

地区内には南部に丸子川があるだけでなく、多摩川に通じる見えない水路があります。これらの豊かな水源により繁茂したみどりがまちに潤いを与えています。

【1-3,4 尾山台1・2丁目エリア】
傳乗寺・宇佐神社と住宅のみどり

【1-5 丸子川エリア】
丸子川と川沿いのみどり

作成：東京都市大学都市空間生成研究室